

ブラックロック・ グローバル・バランス・ファンド

追加型投信／内外／資産複合

繰上償還 交付運用報告書

第48期(償還日2022年8月4日)

作成対象期間(2022年6月17日～2022年8月4日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・グローバル・バランス・ファンド」は、約款の規定に基づき、繰上償還に関する書面決議の手続きを経たうえで、2022年8月4日をもって繰上償還いたしました。当ファンドは、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指して運用を行いました。ここに、運用経過と償還内容をご報告いたしますとともに、これまでのご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問い合わせ先

電話番号:03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

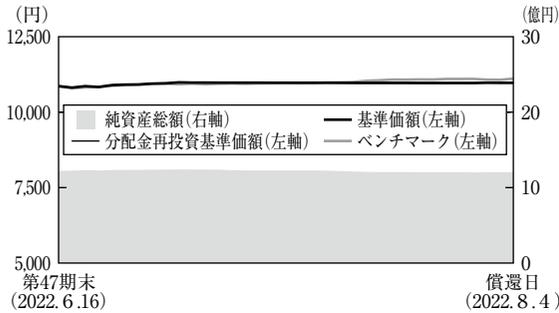
償還日(2022年8月4日)	
償還価額	10,970円55銭
純資産総額	1,202百万円
騰落率	1.0%
分配金	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について（第48期：2022年6月17日～2022年8月4日）



■基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は+1.0%となりました。当期、株式市場、債券市場共に上昇した中、当ファンドの投資対象ファンドの殆どが上昇したため、基準価額が上昇しました。

第48期首 : 10,860円
 第48期末(償還日) : 10,970円55銭(既払分配金0円)
 騰落率 : 1.0%(分配金再投資ベース)

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * ベンチマークは、複合インデックスです。詳細につきましては後記をご覧ください。
- * 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■ 1万口当りの費用明細

項目	第48期		項目の概要
	(2022. 6. 17～2022. 8. 4)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 22	% 0.202	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は10,954円です。
(投信会社)	(11)	(0.100)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(11)	(0.096)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0.006)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.000	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.007	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	23	0.210	

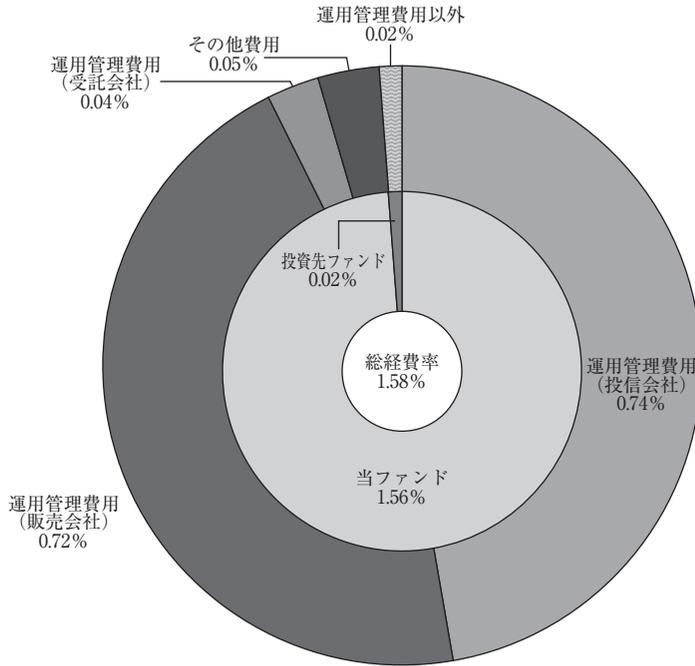
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.58%です。

総経費率(①+②+③)	1.58%
①当ファンドの費用の比率	1.56%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

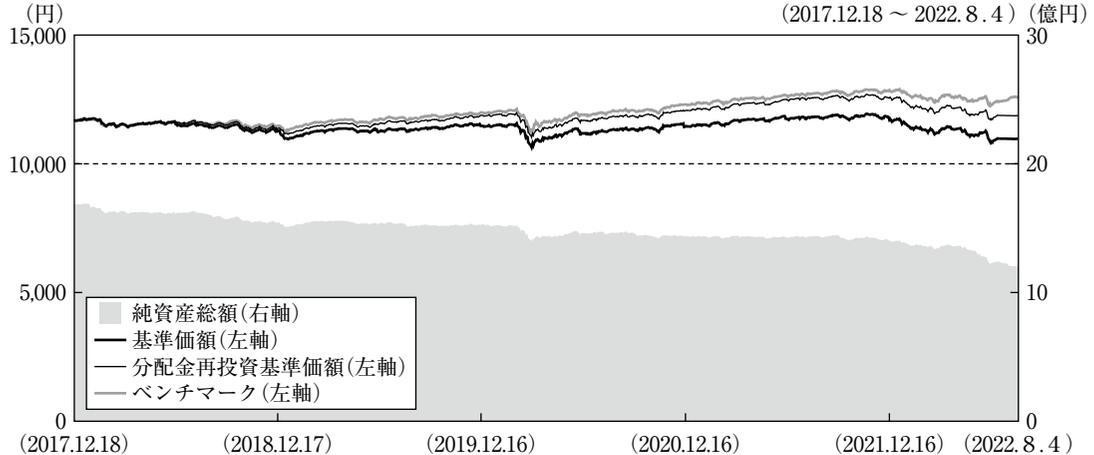
(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2017年12月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2017年12月18日 期初	2018年12月17日 決算日	2019年12月16日 決算日	2020年12月16日 決算日	2021年12月16日 決算日	2022年8月4日 償還日
基準価額(分配落) (円)	11,662	11,160	11,474	11,433	11,710	10,970.55
期間分配金合計(税込み) (円)	-	200	200	200	200	100
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	△ 2.6	4.6	1.4	4.2	△ 5.5
複合インデックス騰落率(%)	-	△ 1.8	4.6	2.6	4.6	△ 1.9
純資産総額 (百万円)	1,674	1,528	1,520	1,427	1,395	1,202

* ベンチマークは、複合インデックスです。

複合インデックスは、以下の指標をそれぞれの割合で合成した指数です。国内債券：NOMURA-BPI50%、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)10%、同インデックス(除く日本、円ヘッジ円ベース)10%、国内株式：TOPIX(東証株価指数)10%、外国株式：MSCIコクサイ指数(円換算ベース)10%、短期金融商品：無担保コール翌日物10%。

なお、ベンチマークを構成する指数は、各種金融機関等で公表されており、その機関等の知的財産です。またこれらの機関等は、当ファンドの運用成果等に関する一切の責任を負いません。

投資環境について

当期(2022年6月17日~2022年8月4日)は、6月の米国連邦公開市場委員会(FOMC)にて、米連邦準備制度理事会(FRB)が75bpsの利上げと、2022年末の政策金利水準3.3-3.4%を示したことで、米国債利回りが上昇に転じた一方、その後景気減速懸念から過度な利上げ観測が後退し、利回りは低下に転じました。これをうけて、株式市場もそれまでの調整から反転する動きがみられたものの、実体経済対する懸念や個別企業業績に対する不透明感が高まる中、7月中旬の米国の消費者物価指数(CPI・6月値)の発表を見極めるべく、不安定な展開が続きました。7月下旬以降、米国の決算発表や主要統計が市場の想定通りの弱い内容となったことや、FRBが予想通りの75bpsの利上げを実施したことで、株式市場の懸念材料が一定程度消化され、上昇基調に回帰する動きとなりました。

<内外株式市場動向>

株式市場は、米国S&P500種株価指数が前期末の3666.77から当期末に4151.94へと上昇、また、東証株価指数(TOPIX)は前期末の1867.81から当期末に1930.73へと上昇しました。

<内外債券・為替市場動向>

債券市場では、日本10年国債利回りは、前期末の+0.26%から当期末には+0.18%へと低下しました。米国10年国債利回りは、前期末の+3.20%から当期末には+2.69%へと低下しました。またドイツ10年国債利回りも前期末の+1.71%から当期末には+0.80%へと低下しました。

為替市場では、ドル/円は前期末の134.31円から当期末は133.66円と円安ドル高、ユーロ/円は前期末の140.52円から当期末は135.83円へと円高ユーロ安となりました。

ポートフォリオについて

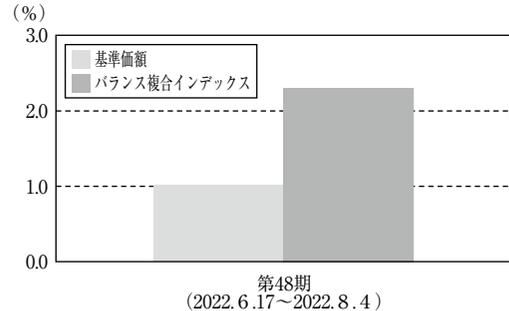
投資環境を反映し各資産のベンチマーク・リターンは国内債券が+0.73%、国内株式が+3.37%、外国債券ヘッジ付きが+4.58%、同ヘッジなしが+3.63%、外国株式が+7.48%となりました。当ファンドの資産

配分においてはほぼ中立での運用を行いました。また、当ファンドの償還決定後、保有資産の売却を進め現金の保有比率を引き上げ、償還に向けて保有証券の全売却を行いました。

ベンチマークとの差異について

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は、+1.0%となり、ベンチマークである複合インデックスは、+2.3%となりました。

【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】

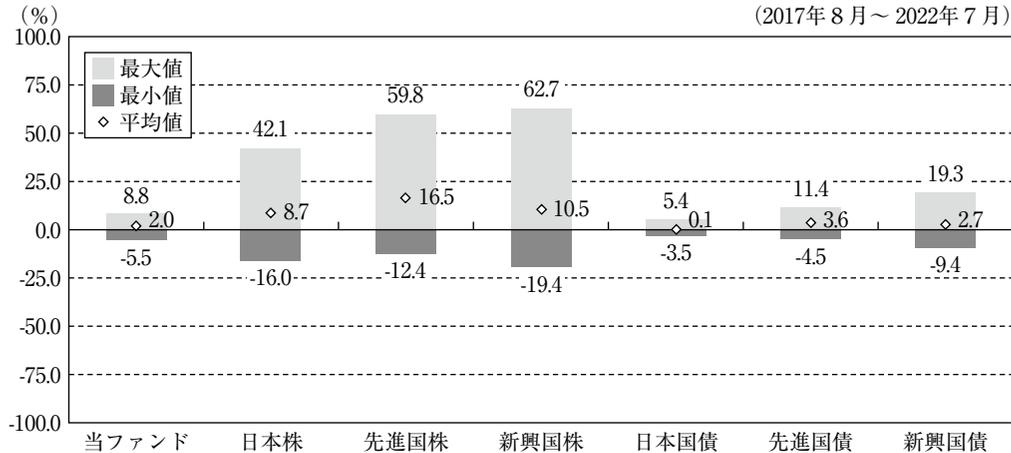


◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合				
信託期間	1998年12月1日から2022年8月4日まで				
運用方針	投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用によりリスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。				
主要投資対象	<p>投資対象ファンドは、別に定めるブラックロック・グループの運用会社が運用する投資信託証券で、原則としてアクティブ運用により付加価値を追求する投資信託証券から選定します。</p> <table border="1"> <tr> <td>証券投資信託 (親投資信託)</td> <td> <p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p> </td> </tr> <tr> <td>ルクセンブルグ籍 外国投資証券</td> <td> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p> </td> </tr> </table>	証券投資信託 (親投資信託)	<p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p>	ルクセンブルグ籍 外国投資証券	<p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p>
証券投資信託 (親投資信託)	<p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行ないませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p>				
ルクセンブルグ籍 外国投資証券	<p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p>				
運用方法	<p>①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。資産配分については、定期的に見直しを行ないます。</p> <p>②ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行ないます。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジによるリスクの低減を図ります。為替ヘッジ(親投資信託における為替ヘッジならびに投資対象ファンドにおいて円に対する為替ヘッジが行なわれている場合はこれを含みます)を行なわない部分を信託財産の純資産総額の原則として30%程度までとします。</p>				
分配方針	<p>年2回の毎決算時(6月16日、12月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行ないます。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行なわないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。</p>				

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*上記は、2017年8月～2022年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

*各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値および東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

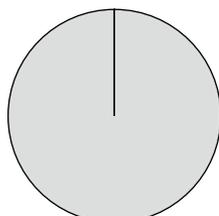
J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

■当ファンドの組入資産の内容

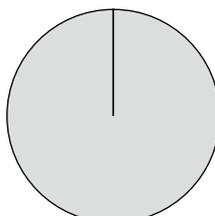
当ファンドに組入れておりました有価証券は期中に全て売却いたしました。

○資産別配分



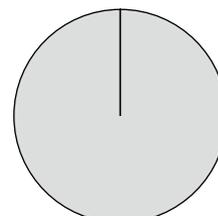
キャッシュ等
100.0%

○国別配分



日本
100.0%

○通貨別配分



日本・円
100.0%

(注) 比率は償還時における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

項目	償還時	
	2022年8月4日	
純資産総額		1,202,767,600円
受益権総口数		1,096,359,978口
1万口当り基準価額		10,970円55銭

* 当期中における追加設定元本額は12,553,487円、同解約元本額は40,607,905円です。